



# ネイチャーセンターだより

2024年7・8月号

## 新・いきもの図鑑



## シマリス (リス科)

その名の通り背中に縞模様のあるリスの仲間で、日本で自然分布しているのは北海道の亜種エゾシマリスだけ。本州では新潟や山梨など見られる地域がありますが、これはペットとして流通した亜種チョウセンシマリスが野生化したものです。

樹上でよく見られるエゾリスは鋭い爪をもっています。一方のシマリスの爪は小さく、主に地上で生活し、森だけでなく草原にも生息します。同じ北海道にすむリスでも、生活の場所をわけることで争いが起きにくいのです。食べ物はドングリなどの木の実や草の芽、昆虫、カタツムリ、鳥のヒナや卵など様々。冬の間も活動するエゾリスと違い、シマリスは冬には地中で冬眠します。

東梅自然学習林※で見られる機会は少ないですが、2023年は5月～10月に合計7回確認されています。

※6月24日現在、東梅自然学習林は封鎖しております。開通等の最新情報はホームページをご覧ください。

### 【参考文献】

村上他. 2020. 北海道の哺乳類. 斜里知床博物館.  
右高. 1994. 科学のアルバム 63 エゾリスの森. あかね書房.  
国立研究開発法人 国立環境研究所. 2024. "侵入生物データベース". (2024/6/4 閲覧).  
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10080.html>

## 5月にクロツラヘラサギが飛来しました

5月6日、風蓮湖の干潟にクロツラヘラサギ1羽が飛来しました。第一発見者は春国岱を散策していた市民で、連絡を受けてレンジャーが現地で確認をしました。

クロツラヘラサギは朝鮮半島の西側の黄海上や中国の遼寧省、ロシアのピョートル大帝湾周辺などで繁殖し、日本では冬鳥として700羽前後が越冬していますが、そのほとんどが九州、沖縄などの西日本。春国岱では1998年に確認されて以来の記録です。

今回見つけた個体は冠羽という頭の羽が長く、胸が黄色っぽい成鳥（おとなの鳥）でした。翌日は姿を見ませんでしたが、8日夕方に温根沼北部の泥炭上で、ウミネコの群れと共に休息している1羽を確認しています。その後は見られなくなり、繁殖地に渡って行ったかと思っていたのですが、21日の夕方、またも成鳥1羽が強風にあおられながら春国岱に飛来しました。

絶滅の危機に瀕しているクロツラヘラサギは国際的に保全活動が行われています。2024年のクロツラヘラサギ世界一斉センサス調査では全世界に6,988羽が確認され、着実に個体数は回復してきています。(香港バードウォッチング協会の集計データに基づく)

### 【参考文献】

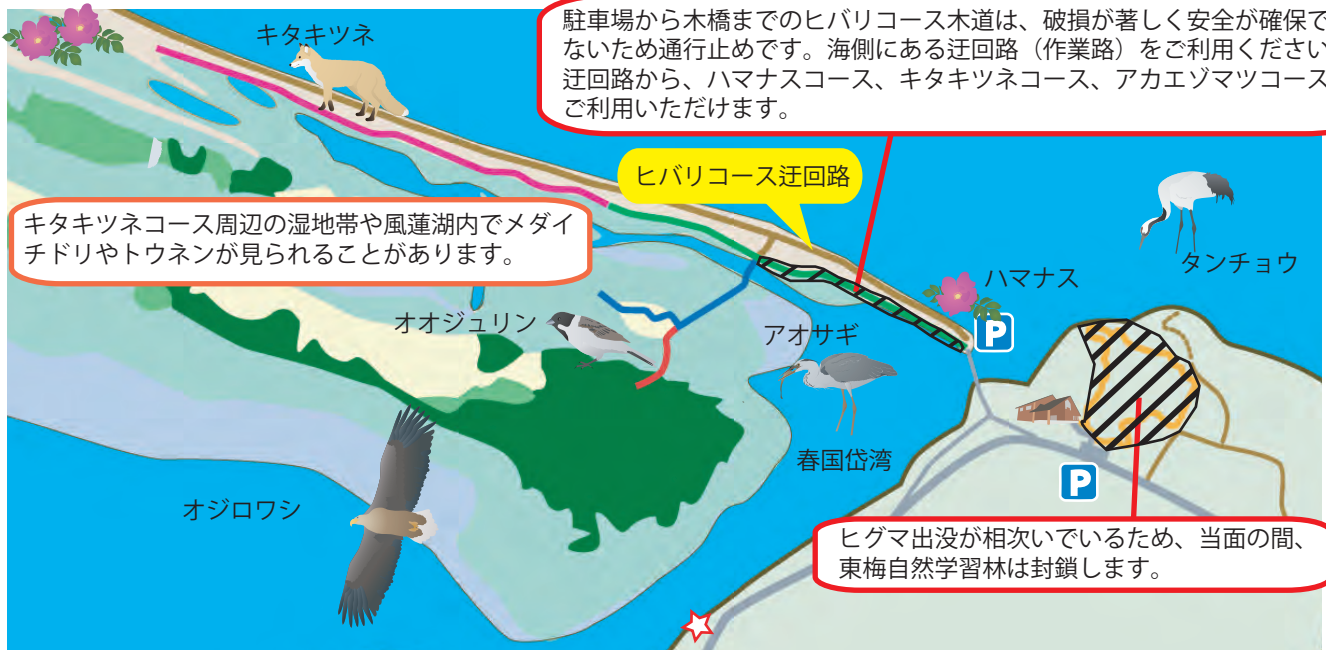
日本クロツラヘラサギネットワーク事務局. 2014. Black-faced Spoonbill アジアをつなぐクロツラヘラサギ. 日本クロツラヘラサギネットワーク.  
日本クロツラヘラサギネットワーク・(公財)日本野鳥の会. クロツラヘラサギ世界一斉センサス集計結果. 公益財団法人日本野鳥の会. 2024. <https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/bfs-pj/bfs-census2024/> (2024/6/17 閲覧)



写真) 2024年5月6日撮影。まわりで寝ているのはオナガガモ。

# 見どころMAP

- ★散策時は虫よけ対策が必須です！なるべく肌を出さず、首には手ぬぐいなどを巻き、虫よけスプレーは服の上からもすることをおすすめします。
- ★ヒグマに出会わないよう、左のページをご参照ください。



キタキツネコース周辺の湿地帯や風蓮湖内でメダイチドリやトウネンが見られることがあります。

駐車場から木橋までのヒバリコース木道は、破損が著しく安全が確保できないため通行止めです。海側にある迂回路（作業路）をご利用ください。迂回路から、ハマナスコース、キタキツネコース、アカエゾマツコースをご利用いただけます。

ヒグマ出没が相次いでいるため、当面の間、東梅自然学習林は封鎖します。

- 緑線 観察路(ヒバリコース1.2km、約25分)
- ピンク線 観察路(ハマナスコース1.4km、約30分)
- 青線 観察路(キタキツネコース0.8km、約20分)
- 赤線 観察路(アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- オレンジ線 観察路(小鳥の小道1.4km、約30分)
- 茶色線 作業路(春国岱上は車両進入禁止)
- 茶色建物アイコン 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)
- 赤星アイコン 東梅野鳥観察舎(東梅ハイド)

## 7・8月の見どころ予報

- 凡例
- ◎ ぜったい見られる (と思う)
  - ちょっと気をつければ見られる
  - + よく気をつければ見られる
  - ・ めったに見られない

オジロワシ	○	少数が風蓮湖周辺で子育てをしています。干潮時、風蓮湖や根室湾の干潟に降りて、魚や水鳥などを狙っている姿が見られます。8月になると巣立った幼鳥が観察できるかもしれません。
タンチョウ	○	春国岱周辺の干潟などで採食している姿や、休む姿が見られます。ヒナを育てているつがいはとても神経質になる時期なので、落ち着かない様子のタンチョウがいたらすぐに離れてください。ネイチャーセンター東側の温根沼大橋周辺で10羽前後のタンチョウの群れが見られることがあります。
アオサギ	○	多い時は200羽近くが春国岱に集まり、干潮時に水辺で魚を捕らえる姿が見られます。最盛期は、8月～9月。夕方になると、群の一部が自然学習林に移動して休んでいることがあります。
シギチドリ類	+	繁殖を終えたシギ・チドリ類が7月下旬から渡来し始め、風蓮湖や根室湾の干潟で採食する様子が観察できることがあります。メダイチドリ、ミヤコドリ、ホウロクシギ、キアシシギ、トウネンなどが見られます。
春国岱	野鳥(森)	鳥たちのさえずりは、あまり盛んではなくなりますが、ルリビタキ、ミソサザイなどの声が聞かれます。
	野鳥(草原)	海岸の草原ではヒバリのさえずりがよく聞かれます。湿原では、マキノセンニュウやシマセンニュウ、ノビタキ、オオジュリンなどのさえずりが聞かれます。巣立った幼鳥と出会うこともあります。
	花	ハマナスの花は7月中旬ごろまでで、下旬には実がつけます。7月はマルバトウキ、ウミミドリ、エゾハコベが見頃です。8月にはウンラン、エゾオグルマ、ナミキソウなどが見られます。
自然学習林	近隣でヒグマの目撃が相次いでいるため、当面の間、封鎖します。 開通等の最新情報は、ホームページをご確認ください。	
危険生物	エゾイラクサ・ツタウルシには、さわらないようにご注意ください。 マダニ・カ・ヌカカを防ぐため、虫よけ剤の塗布、肌を出さない服装をおすすめします。	



## 6月に東梅自然学習林・春国岱でヒグマの姿が確認されました

- ・6月17日、18日：東梅自然学習林 市設置の自動撮影カメラにヒグマ1頭が映る
- ・6月21日：春国岱南岸から風蓮湖を泳いで渡る姿が目撃された
- ・6月24日：春国岱ネイチャーセンター周辺の路上、および、春国岱橋周辺で姿が目撃された

根室市内におけるヒグマの目撃は増加しており、4月～6月中旬までの目撃件数は昨年の約3倍。ヒグマに絶対に会わないと言える場所はなく、特に森や林の周辺はヒグマの生息地と考え、自然の中に入る際は野生動物の生息地にお邪魔している気持ちで行動しましょう。

### ヒグマに会わないために

- ・ヒグマの出没情報に気をつける。  
散策前にネイチャーセンターや、根室市のホームページで情報を確認しましょう。

根室市 ヒグマ目撃情報 検索

- ・森林や沢、見通しの悪い場所に入るときは音を立てる。

鈴をつける。手をたたく。「入るよー」「通るよー。」などと声を出す。

ヒグマが人の存在に気がつき、たいていはヒグマの方から人をさけてくれます。

ネイチャーセンターではクマ鈴の貸出をしています。

- ・薄暗い時間の行動、一人での行動はできるだけ避ける。

- ・足跡や糞を見つけたら、すぐに引き返す。

- ・ごみは持ち帰りましょう。

ヒグマは鋭い嗅覚もっています。人が捨てた食べものに寄ってこないように、絶対にごみは持ち帰りましょう。

野生動物に食べ物を与えることは、言語道断です。人里に頻りに姿を現すようになってしまうと、そのクマは殺さざるを得なくなることもあります。人間の不注意が、人間も、ヒグマも、危険におとし入れることになります。

- ・遠くにヒグマを見つけたら、様子を見て行動しましょう。

ヒグマが人に気が付いていなければ、そっとその場を離れましょう。こちらに気が付いている場合は、クマの移動方向を見定めながら、静かに立ち去りましょう。叫んだり走ったりせず、落ち着いて行動しましょう。



ヒグマの足跡(左)  
と糞(右)▶

【参考文献】北海道環境生活部環境局自然環境課、あなたとヒグマの共存のために(冊子)。

北海道環境生活部環境局自然環境課、ヒグマを知ろう-あなたとヒグマのために-(冊子)。→ネイチャーセンターで配布中

## 春国岱クイズ

春先に、花が咲いていないのによく聞かれる植物があります。バイケイソウです。東梅自然学習林の小鳥の小道で見られ、他の植物よりも早い時期にぐんぐんと成長するためよく目立ちます。しかし、6月になるとクサソテツやヨブスマソウ、ミズバショウといった他の植物が大きくなるので、隠れて目立たなくなります。花も黄緑色のため、咲いていても見過ごされることが多いのですが、6月下旬になるとある変化が起き、また目につくようになります。その変化とは、次のうちどれでしょう？

- ①枯れて葉が黄色くなったり、ドロドロに溶ける。
- ②花の後にさらに背丈が伸び、2m近くになる。
- ③花は黄緑色なのに、ピンク色の実がつく。

黄緑色の▶  
目立たない花



▲5月に林床で目立つバイケイソウ



答えはウラのページ

## 春国岱ネイチャーセンターのイベント情報

※「ねむろわんぱくチャレンジ」のポイント対象です

### ◆7/15 夏休み直前！おが粉アート体験

色をつけたおがくす屑を使ってオリジナルのプレートづくりをします。  
下絵もあるので、絵が苦手な方でも大丈夫です。  
子どもから大人までどなたでも楽しめます！

- ◇日時：7月15日(月・祝)10:00～11:30
- ◇場所：春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター
- ◇受付：時間中随時(予約不要)
- ◇対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
- ◇参加費：1人200円
- ◇主催：ボランティアグループ「スंक」
- ◇問合せ：春国岱ネイチャーセンター  
電話：0153-25-3047 / Eメール：nemu\_nc@marimo.or.jp



上記イベントはボランティアグループ「スंक」のみなさんが企画・実施します！

募集中！

ボランティア『スंक』

春国岱ネイチャーセンターでは、施設ボランティアグループ『スंक』で活動して下さる方を随時募集しています。

『スंक』は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的として活動しています。月に1回(基本的に第3月曜日)の定例会で、自然学習林の巡回や道標・樹名板などの管理を行ったり、市民向けのイベントを企画したりしています。熱いながらもゆるい楽しい集まりです。

ボランティアに興味のある方、定例会の見学ご希望の方は、ネイチャーセンターまでお問合せください。

- ◆対象：18歳以上
- ◆年会費(ボランティア保険料含む)：1,000円

### フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 禁煙にご協力ください
- 野生動物の生息地です。マダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください。
- ドローンを飛行される際は、他の利用者や野生生物に配慮をお願いいたします。

クイズのこたえ 答①。成長が早い一方で、他の植物が青々と茂っている時期に枯れてしまうため、よく目立ちます。北海道中央部ではアイヌ語でホシキ・ティネと呼ばれ、「最初に腐ってべちゃべちゃになる」という意味。【参考文献】更科他、2020。コタン生物記Ⅰ樹木・雑草篇 新版。青土社。

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)

〒086-0074 北海道根室市東梅103番地

TEL: 0153-25-3047 FAX: 0153-25-8570

Eメール: nemu\_nc@marimo.or.jp

HP [https://www.marimo.or.jp/~nemu\\_nc/workn/index.html](https://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html)

Facebook <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆開館時間 9:00～17:00(4～9月)

◆休館日: (毎週水曜日、祝日の翌日(土・日を除く)、水曜日が祝日の場合翌々日)

7月3・10・16・17・24・31日 8月7・13・14・21・28日

◆団体でご利用の方へ(事前予約制・2週間前までにご連絡ください)

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録